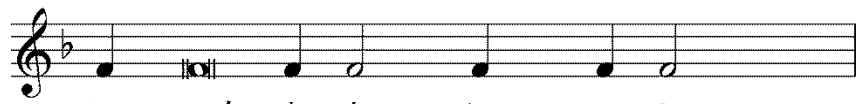


【 復活讃詞 第1調 】

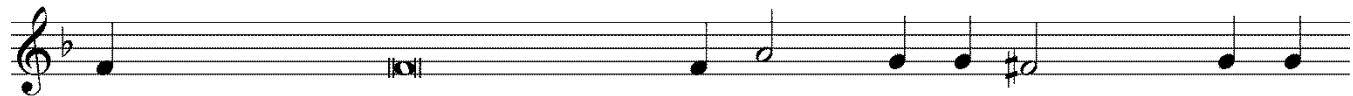
きゆ うせ え いしゆよ、 イウデヤのひとはかを
 救 世 主 人 墓
 ふ 封 うじて、 へい そつ なんぢの い さぎ よ き み を
 封 兵 卒 爾 潔 軀
 ま も る と き、 なんぢは みつかめに ふく か つ
 守 時 爾 三 日 目 復 活
 して、 せ かい に い の ち を た ま え り。
 世 界 生 命 賜
 ゆ え にてんぐんはなんぢい の ち を ほ ど こ す の
 故 天 軍 爾 生 命 施
 しゆに よ べ り、 ハリスト スよ、 こう えい は
 主 呼 光 榮
 なんぢの ふく か つ に き し、 こ おう えい は なんぢ
 爾 復 活 歸 光 榮 爾
 の く に に き す、 ひ と り ひ と を い つ く し む
 國 歸 獨 人 慈
 しゆ よ、 こう えい は なんぢの おもんぱ かりに
 主 光 榮 爾 慮
 き す。
 歸

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 第4調 】

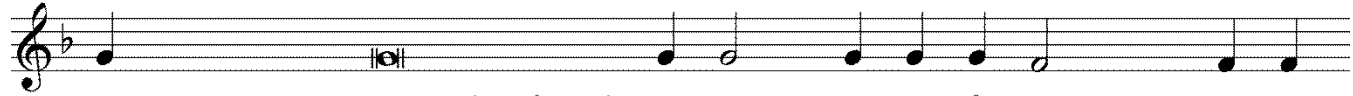
こう えい は ち ち と こ と せ い しん に き す、 い ま も
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今



いつもよよに、アミン。
何時 世世



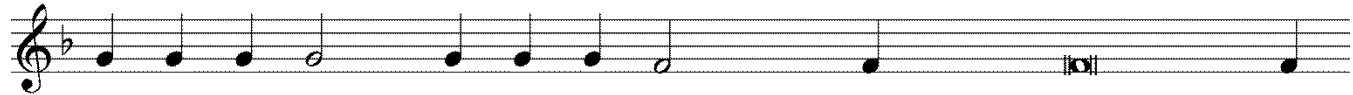
しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
使徒 等 同 座 者 忠



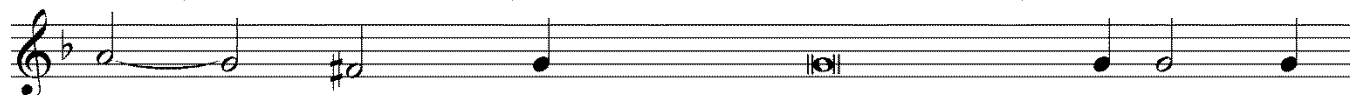
じつにしてしちなるハリストスのえきしゃ、せい
實 神 智 役 者 聖



なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
神 撰 笛 愛



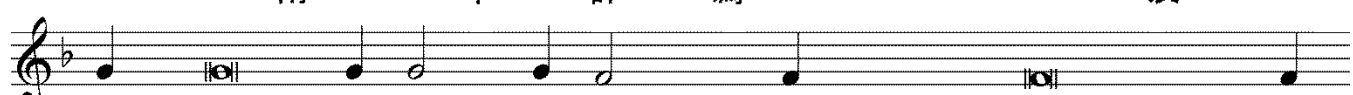
にみちたるうつわ、わがくにのこう
満 器 我 國 光



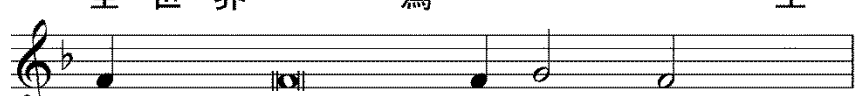
しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
照 者 亜 使 徒 主 教 聖



よ、なんぢのぼくぐんのため、および
爾 羊 群 爲 及



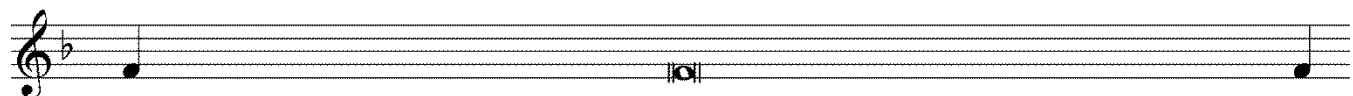
ぜんせかいのために、いのちをたもうせい
全世界 爲 生 命 賜 聖



さんしゃにいのりたまえ。
三者 祈 給

【 聖三の歌 】

代禱) 主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、



しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
主 敬 虔 者 救 及 我

らにききたまえ。
等 聆 給

代禱) 世世に、

アミン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょうせいのもものよ、われらをあわれめ
常 生 者 我 等 憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ
常 生 者 我 等 憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光 榮 父 子 聖 神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸 今 何 時 世 世

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せいなるかみ、せいなるゆう
 聖 神 聖 勇
 き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
 毅 聖 常 生 者 我 等
 あわれめよ。
 憐

【 提綱 (プロキメン) 主日第1調 】

代禱 ^{えいち} 睿智、

誦經) プロキメン、^{しゅ}主よ、^{われらなんぢ}我等^{たの}爾を^{ごと}頼むが如く、^{なんぢ}爾の^{あわれみ}憐を^{われら}我等^たに^{たま}垂れ給え、

しゅ よ 、 われらなんぢをたのむがごとく、
 主 我 等 爾 頼 如
 な んぢの あわれ みをわれらにたれたま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え 。

誦經) ^{ぎじん}義人よ、^{しゅ}主の^{ため}爲に^{よろこ}喜べ、^{さんえい}讚榮するは^{ぎしゃ}義者に^{かな}適う、

しゅ よ 、 われらなんぢをたのむがごとく、
 主 我 等 爾 頼 如
 な んぢの あわれ みをわれらにたれたま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え 。

誦經) ^{しゅ}主よ、^{われらなんぢ}我等^{たの}爾を^{ごと}頼むが如く、



【 使徒經 (アポストロス) 131 端 コリント前書 4 章 9 節～16 節 】代禱 ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒 ^{じん たつ} パヴェルが ^{ぜんしょ よみ} コリント人に達する前書の讀、

代禱) ^{つつし} 謹みて ^き 聴くべし、

誦經) ^{けいてい} 兄弟よ、^{われおも} 我意 ^{かみ} うに、^{われらしと} 神は ^{すえ} 我等使徒を ^{もの} 末なる者と ^し 爲して、^{さだ} 死に定められたる ^{もの} 者の如く ^{あらわ} 顯

^{われら} せり、^{せかい} 我等は世界の爲、^{ため} 天使等 ^{てんしら} 及び ^{ひとびと} 人々の爲に、^{ため} 觀玩と爲りたればなり。 ^{われら} 我等はハリス

^よ トスに ^ぐ 因りて ^{なんぢら} 愚なり、^{なんぢら} 爾等はハリストスに ^{おい} 於て ^ち 智なり、^{われら} 我等は ^{よわ} 弱く、^{なんぢら} 爾等は ^{つよ} 強し、^{なんぢら} 爾等

^{えい} は ^う 榮を ^{われら} 享け、^{われら} 我等は ^{はづかしめ} 辱に ^お 處るなり。 ^{いま} 今に ^{いた} 迄るまで ^{われら} 我等は ^う 飢え、^{かわ} 渴き、^{はだか} 裸裎になり、^う 撻

^{さだま} たれ、^お 定り ^{ところ} 居る處 ^{ろう} なく、^て 勞して ^{わぎ} 手づから ^な 工を作す。 ^{われらのし} 我等 ^{しゅくふく} 詈られては ^{きんちく} 祝福し、^{きんちく} 窘逐

^{しの} せられては ^{そし} 忍び、^{いの} 謗られては ^{われら} 禱る、^よ 我等は ^{あくた} 世の汚穢の如く、^{しゅう} 衆の ^ふ 踐む ^{ところ} 所の ^{ちり} 塵垢の如く

^{いま} せられて ^{いた} 今に至れり。 ^{われ} 我は ^{なんぢら} 爾等を ^{はづか} 愧し ^{ほつ} めんと ^{これ} 欲して ^{しよ} 此を書するに ^{あら} 非ず、^{すなわちわ} 乃 ^{あい} 我が ^{あい} 愛

^{ところ} する ^こ 所の ^{ごと} 子の如く ^{なんぢら} 爾等を ^{おし} 訓うるなり。 ^{けだしなんぢら} 蓋 ^{おい} 爾等には、^{ばんにん} ハリストスに ^{しふ} 於て ^{しふ} 萬人の師傅あ

^{いえども} りと ^{おお} 雖、^{ちち} 多くの父 ^{われ} あるなし、^{おい} 我ハリストス ^{ふくいん} イススに ^{もつ} 於て ^{なんぢら} 福音を ^う 以て ^う 爾等を生み

^{ゆえ} ればなり。 ^{われなんぢら} 故に ^{もと} 我 ^{われ} 爾等に ^{なら} 求む、^{われ} 我に ^お 效いて、^{ごと} 我のハリストスに ^お 於けるが ^{ごと} 如く ^{ごと} せよ。

(比較用 口語訳) 神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。わたしたちはキリストのゆえに愚かな者となり、あなたがたはキリストにあって賢い者となっている。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。今の今まで、わたしたちは飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしであり、苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉をかけている。わたしたちは今に至るまで、この世のちりのように、人間のくずのようにされている。わたしがこのようなことを書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、むしろ、わたしの愛児としてさとすためである。たといあなたがたに、キリストにある養育掛が一人あつたとしても、父が多くあるのではない。キリスト・イエスにあって、福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。そこで、あなたがたに勧める。わたしにならう者となりなさい。

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第1調 】

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、
ア リル イ ヤ。

誦經) ^{ねが}願わくは我が^わ爲に^{あだ}仇を復し、^{かえ}我に^{われ}諸民を^{しよみん}従わしむる^{したが}神は^{かみ}讚頌^{さんしょう}せられん、

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、
ア リル イ ヤ。

誦經) ^{おおい}大なる^{すくい}救を^{おう}王に^{ほどこ}施し、^{あわれみ}憐を^{なんぢ}爾の^{あぶら}膏つけられし^{もの}者^{およ}ダヴィド^{そのすえ}及び^{よよ}其裔に^{よよ}世世に

^た垂るる^{もの}者よ、^{われなんぢ}我^な爾^{うた}の名に歌わん、

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、
ア リル イ ヤ。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 72 端 17 章 14~23 節 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{でん}マトフェイ^{せいふくいんけい}傳の^{よみ}聖福音經の讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮



は なんぢに き す 。
爾 歸

代禱) ^{つつし} 謹 ^き みて聴くべし、

誦經) ^か 彼の ^{ときあるひと} 時 ^つ 或 ^{ひざまづ} 人 ^い イエス ^{しゅ} に ^わ 就 ^こ きて、 ^{あわれ} 跪 ^{かれてんかん} きて ^{わづら} 曰 ^{えり} えり、 ^わ 主 ^よ 、 ^{わが} 我が ^こ 子 ^を を ^{あわれ} 憐 ^め め、 ^彼 彼 ^癩 癩 ^を を ^患 患

^{いて} いて、 ^{苦し} 苦 ^む む ^{こと} こと ^甚 甚 ^し し、 ^蓋 蓋 ^屢 屢 ^火 火 ^に に ^倒 倒 ^れ れ、 ^亦 亦 ^屢 屢 ^水 水 ^に に ^倒 倒 ^る る、 ^我 我 ^之 之 ^を を ^攜 攜 ^え え ^て て、 ^爾 爾

^の の ^門 門 ^徒 徒 ^に に ^就 就 ^{きた} きた ^れ れ ^{ども} ども、 ^彼 彼 ^等 等 ^醫 醫 ^す す ^{こと} こと ^能 能 ^わ わ ^ざ ざ ^り り ^き き。 ^{イエス} イエス ^答 答 ^え え ^て て ^曰 曰 ^え え ^り り、 ^噫 噫 ^信 信 ^な な ^き き ^悻 悻 ^れ れ

^る る ^世 世 ^や や、 ^我 我 ^何 何 ^時 時 ^ま ま ^で で ^か か ^爾 爾 ^等 等 ^と と ^偕 偕 ^に に ^在 在 ^ら ん、 ^何 何 ^時 時 ^ま ま ^で で ^か か ^爾 爾 ^等 等 ^を を ^忍 忍 ^ば ば ^ん ん、 ^彼 彼 ^を を ^此 此 ^に に ^我 我 ^に に ^攜 攜

^え え ^來 來 ^れ れ。 ^{イエス} イエス ^魔 魔 ^鬼 鬼 ^を を ^禁 禁 ^め め ^た た ^れ れ ^ば ば、 ^魔 魔 ^鬼 鬼 ^出 出 ^で て、 ^其 其 ^子 子 ^斯 斯 ^の の ^時 時 ^よ よ ^り り ^愈 愈 ^え え ^{たり} たり。 ^其 其 ^時 時 ^門 門 ^徒 徒 ^私 私

^に に ^{イエス} イエス ^に に ^就 就 ^{きて} きて ^曰 曰 ^え え ^り り、 ^我 我 ^等 等 ^が が ^之 之 ^を を ^逐 逐 ^い い ^出 出 ^す す ^能 能 ^わ わ ^ざ ざ ^り り ^し し ^は は ^何 何 ^の の ^故 故 ^ぞ ぞ。 ^{イエス} イエス ^彼 彼 ^等 等 ^に に ^謂 謂

^え え ^り り、 ^爾 爾 ^等 等 ^信 信 ^な な ^き き ^故 故 ^{なり} なり、 ^蓋 蓋 ^我 我 ^誠 誠 ^に に ^爾 爾 ^等 等 ^に に ^語 語 ^ぐ ぐ、 ^爾 爾 ^等 等 ^若 若 ^し し ^芥 芥 ^種 種 ^の の ^如 如 ^き き ^信 信 ^{あら} たら

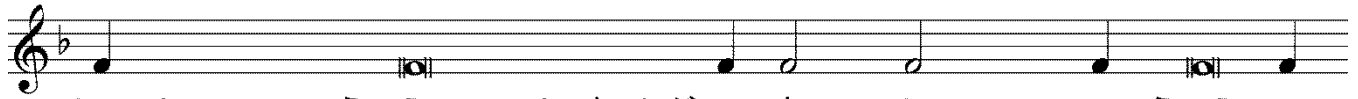
^ば ば、 ^此 此 ^の の ^山 山 ^に に、 ^此 此 ^よ よ ^り り ^彼 彼 ^に に ^移 移 ^れ れ ^と と ^言 言 ^う う ^{とも} とも、 ^移 移 ^ら ん、 ^又 又 ^爾 爾 ^等 等 ^に に ^一 一 ^も も ^能 能 ^わ わ ^ざ ざ ^る る ^{こと} こと ^勿 勿 ^ら ら

^ん ん。 ^此 此 ^の の ^類 類 ^に に ^至 至 ^り り ^て て ^は は、 ^祈 祈 ^禱 禱 ^と と ^齋 齋 ^と と ^に に ^由 由 ^ら ら ^ざ ざ ^れ れ ^ば ば ^出 出 ^で て ^ぎ ぎ ^ら ら ^ん たり。 ^ガ ガ ^リ リ ^レ レ ^ヤ ヤ ^に に ^在 在 ^る る ^時 時、 ^イ イ

^エ エ ^ス ス ^彼 彼 ^等 等 ^に に ^謂 謂 ^え え ^り り、 ^人 人 ^の の ^子 子 ^は は ^人 人 ^の の ^手 手 ^に に ^付 付 ^さ さ ^れ れ ^ん ん。 ^且 且 ^彼 彼 ^を を ^殺 殺 ^{さん} さん、 ^而 而 ^し し ^て て ^第 第 ^三 三 ^日 日 ^に に

^{かれ} 彼 ^ふ 復 ^か 活 ^{せん} せん、

(比較用 口語訳) ひとりの人がイエスに近寄ってきて、ひざまずいて、言った、「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。何度も何度も火の中や水の中に倒れるのです。それで、その子をお弟子たちのところに連れてきましたが、なおしていただけませんでした」。イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまであなたがたに我慢ができようか。その子をここに、わたしのところに連れてきなさい」。イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。それから、弟子たちがひそかにイエスのもとにきて言った、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない」。彼らがガリラヤで集まっていた時、イエスは言われた、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮

は なんぢに き す 。
爾 歸

※代式祈祷③ へ